

## 2022年度（令和4年度）社会福祉法人小金井さくら会事業報告

はじめに

2022年度も新型コロナウイルス感染症が収束することなく、第7波・第8波の際には利用者や家族、職員を始めとした関係者の多くに陽性者が発生し、事業を休止せざるを得ない事態にもなりました。幸い、陽性者が重篤化することなく短期間で事業所も再開することができ、依然と変わらぬ事業活動が展開できたのは、利用者を始めとした関係者一同の協力の賜物と感謝しております。

さて、社会福祉法人として中長期計画の大きな柱である「ゆめ工場の移転計画」が実現に向けおおきく動きはじめ、国有地の定期借地申請、国や都への補助金申請等々着実に歩みを進めています。来年度には具体的な移転に向けたプロジェクトチームを組織しさくら会全体で移転計画を推進していきたいと思っております。

また、権利擁護や意思決定支援の取り組みとして、第三者委員（オンブズパーソン）の相談体制を開始いたしました。3人の第三者委員に事業所への訪問相談という形で定期的に苦情相談の機会を設け、年に1度ご家族との懇談会も開催いたしました。よりよい利用者主体のサービス提供のための取り組みであります。

### 【社会福祉法人小金井さくら会基本理念】

1. 利用者の尊厳と人権を大切にし、本人主体を尊重します。
2. 利用者の力や能力が発揮できるよう一人ひとりに合わせた支援を心がけます。
3. 利用者の安全と安心に努めます。
4. 利用者が地域に根ざした生活を続けられるよう地域との関わりを大切にします。
5. 障害福祉に携わる職員として自覚を持ち、より質の高いサービスに向け努力します。
6. 「小金井市手をつなぐ親の会」をはじめとした、地域の障害者関係機関との協力や協働により、地域福祉の充実と共生社会の実現に向け、地域と共に成長していきます。

### 【基本方針】

1. 法人の基本理念を周知徹底し、利用者の意向を尊重し、「安心して自分らしい生活」を送ることができるよう質の高いサービスの提供に努めます。
2. 職員一同がコンプライアンス遵守を徹底し、利用者支援に努めます。
3. 地域の福祉資源としての役割を認識し、地域福祉の向上に寄与します。

### 【理事会・評議員会】

#### 1. 理事会

第8回 開催日 2022年6月10日（金曜日）14時から16時

#### 【決議事項】

- 第1号議案 令和3年度（2021年度）事業報告書の承認
- 第2号議案 令和3年度（2021年度）決算報告の承認
- 第3号議案 ゆめ工房さくら移転事業計画の承認

第4号議案 第4回評議員会開催の決定

第5号議案 新役員候補者の承認

【報告事項】

理事長職務執行報告

第9回 開催日 2022年6月21日(火曜日) 15時から15時30分

【決議事項】

第1号議案 理事長選任の件

第10回 開催日 2022年11月15日(火曜日) 14時から16時

【決議事項】

第1号議案 積立金積立の承認

第2号議案 けん責承認の改定

【報告事項】

- ・規程類の改定
- ・中期計画の進捗状況について
- ・2022年度第1回運営協議会およびオンブズパーソン相談の報告
- ・理事長職務執行報告
- ・その他

第11回 開催日 2023年3月22日(火曜日)午後2時から午後4時00分まで

【決議事項】

第1号議案 2022年度補正予算

第2号議案 2023年度当初予算

第3号議案 2023年度事業計画

第4号議案 常勤職員の採用計画

第5号議案 重要な役割を担う職員の選任

第6号議案 常勤職員の処遇・昇格の決定、昇給の決定、及び年間賞与枠の決定

【報告事項】

- ・「ゆめ工房さくら移転」事業計画報告
- ・ゆめ工房さくら移転計画の入札実施について
- ・理事長業務報告(資料当日配布)
- ・その他の報告

2. 評議員会

第4回 開催日 2022年6月21日(火曜日) 13時半から15時まで

【決議事項】

第1号議案 理事6名及び監事2名の選任

第2号議案 令和3年度(2021年度)決算報告の承認

第3号議案 ゆめ工房さくら移転事業計画の承認

【報告事項】

・令和3年度(2021年度)事業報告

【重点目標】

1. 新型コロナウイルス感染症により昨年度十分ではなかった取り組みを始めることができました。障害福祉サービスを提供する社会福祉法人として、利用者主体の運営における大切な苦情相談体制を「第三者委員相談」(オンブズパーソン相談)として本格的に開始することができました。また、本格的な社会福祉法人の経営に関して、社会福祉法人経理規程に則り補正予算立案や決算業務を遂行することができました。これは法人運営面や経理基準の遵守および規定類の整備などの点について理事や評議員からの助言をいただき実現されたことであります。  
そして「ゆめ工房さくらの移転計画」に関して、全職員が一丸となって実現できるよう常勤職員を中心に定期的な「意識共有」の場を設け、利用者、職員、地域にとって使いやすい事業所とは何かということを検討しています。情報の共有化とセキュリティ対策の強化につきましては、ゆめ工房さくらの移転を機に新たな外部からの新種のウイルス侵入対策を構築する予定です。
2. 職員の支援力のスキルアップを図ることに关しては、新型コロナウイルス感染症予防のため多くの研修会が引き続きリモート方式で開催されることとなりましたが、徐々に対面で実施できたものもありました。また、ハラスメント研修も今年度より実施いたしました。

年間研修報告

《さくら会法人内研修》

5月	9日	ゆめ工房職員研修(伊藤講師)	15名
6月	13日	ゆめ心理検査及び研修(伊藤講師)	5名
	24日	ハラスメント研修(針生講師)	全職員対象
7月	1日	フラワー工房心理検査及び研修(伊藤講師)	5名
8月	4日	ゆめ工房職員研修(伊藤講師)	15名
	10日	フラワー工房職員研修(伊藤講師)	12名
	30日	初任者研修	5名
9月	2日	フラワー工房職員研修(伊藤講師)	12名
10月	18日	福祉講演会 後見人制度について	19名
	28日	権利擁護職員研修(石塚講師)	全職員対象
11月	18日	GHらいむ職員研修(伊藤講師)	8名
12月	2日	GHらいか職員研修(伊藤講師)	9名
1月	19日	ゆめ工房職員研修(伊藤講師)	15名
2月	2日	フラワー工房職員研修(伊藤講師)	12名
	24日	GHゆりの木職員研修(伊藤講師)	7名
3月	3日	GHさくら職員研修(伊藤講師)	19名

※今年度の研修は「ゆめ工房の移転」を見据えて、支援体制の充実に役立てる視点を育むことに力点を置いて取り組みました。

《外部研修》

6月	15日	相談支援専門員現任研修	2名
	27日	相談支援専門員現任研修	1名
	28日	相談支援専門員現任研修	1名
7月	4日	地域法人協議会研修会（インボイス制度）	1名
	27日	強度行動障害基礎研修	2名
8月	1日・2日	相談支援専門員現任研修	1名
	4日・5日	相談支援専門員現任研修	1名
	8日	ダウン症支援セミナー	1名
9月	22日	地域法人協議会研修会（尊厳あるその人らしい生活）	1名
10月	3日～12月2日	サポーターズ・カレッジ 虐待防止及び意思決定等	全職員対象
	17日	育成会中級中堅職員研修	1名
11月	21日・22日	サービス管理責任者初任者研修	1名
	29日	自閉症支援研修（現場のアセスメント）	2名
12月	7日	地域法人協議会実践発表会	2名
	14日	相談支援専門員研修（知的障害のある方の高齢化）	5名
	22日	相談支援専門員研修（地域で安心して暮らせるために）	5名
1月	7日	障害者グループホーム管理者研修	2名
2月	3日	育成会実践発表会	1名
	22日	地域法人協議会セミナー	5名
3月	11日	福祉講演会 実践者に学ぶ「看取り」の援助	46名

3. 中期計画の推進に関しては、中心的な計画であるゆめ工房さくらの移転事業を中心に取り組み、具体的な建築に向けての必要な申請書類を滞りなく提出し、事業計画スケジュールに沿った進捗状況となっております。
4. 日中活動の再構築に関しては、菓子部門の統合や新たな自主製品の開発など常勤職員が中心となって情報共有と検討する場を設け、来年度早々にはチームとして動き出せる準備を行いました。
5. 虐待防止の取り組みについては、全職員を対象とした虐待防止研修の実施や各事業所における職員会議などの機会を通じ、意思決定支援に関する支援意識の醸成に努めました。また、「苦情解決の仕組みを分かりやすいものにした方がよい。」等の助言をいただいたことから、苦情対応規程の変更（第三者委員による相談の開始）や身体拘束禁止の取り組み（身体拘束適正化委員会設置）、ハラスメント防止規定などを制定し、利用者をはじめ家族や職員にも安心できる仕組みを構築しました。

6. 3人の第三者委員（オンブズパーソン）による苦情相談日を設け、事業所に訪問し利用者の苦情や悩みを伺う取り組みを開始しました。年に一度家族の方々とも懇談する機会を設け、本格的な運用を開始しています。
7. 福祉関連団体との交流活動や地域行事に積極的に参加して連携を進め、新たな事業展開に向けた取り組みに関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができませんでした。
8. 広報誌「さくら」やホームページ、福祉講演会などの情報発信を通じ、障がいに対する正しい理解の普及に努めることに関しては、新型コロナウイルス感染症が下火になっていた、令和4年10月18日（火）に第18回福祉講演会として、NPO法人ウィル理事長 阿部由美氏を講師としてお招きし「基礎から学ぶ成年後見制度」を開催。令和5年3月11日（火）には第19回福祉講演会として、社会福祉法人北ひろしま福祉会看取り援助推進室室長 小林悦子氏をお招きし「実践者に学ぶ「看取り」の準備～生ききるための準備を始めましょう～」と題して小金井地域で初めての「看取り」講演会を実施しました。成年後見制度や看取りについて新たな気づきを得られる講演会となりました。広報誌「さくら」も社福として発行し、ホームページも随時更新することができました。
9. 新型コロナウイルス感染症予防対策に万全を期し、安心安全な環境を提供することに関しては、昨年同様感染予防補助金などを活用し環境整備を強化しました。  
また、東京都によるグループホームPCR検査、日中事業所抗原検査キットの活用により、週ごとの職員感染状況の把握を行いました。

#### 環境整備内容

事業所名	使 途
ゆめ工房	・エアコンフィルター清掃、コロナ対策関連消耗品類（アクリル板やアルコール消毒液、ガウン、手袋等）、CO2 測定器
フラワー工房	・防菌ロールカーテン、コロナ対策関連消耗品類（アクリル板やアルコール消毒液、ガウン、手袋等）、CO2 測定器
グループホーム	・非常食、コロナ対策関連消耗品類（アクリル板やアルコール消毒液、ガウン、手袋等） ・ CO2 測定器
あしすと	・空気清浄機・コードレスクリーナー ・ CO2 測定器

## 10. 活動概要

※新型コロナウイルスの影響によりほとんどの活動が中止となったため、主な内容のみ記載しています。

04月15日	さくら会合同職員会議	10月18日	第18回福祉講演会
04月27日	さくら会合同保護者会	12月03日	障害者週間記念行事
06月24日	ハラスメント研修	12月16日	クリスマス会
08月30日	新任職員研修	03月11日	第19回福祉講演会
10月07日	ミニ運動会		

## 11. 定期的な活動

理事会	4回	運営会議	12回
各事業所職員会議	12回	虐待防止委員会	3回
NPO法人りんく定例会	8回	障害者週間実行委員会	6回
常勤会議	12回	GH連絡会	12回
運営協議会	2回		

## 12. 他機関連携

※新型コロナウイルスの影響によりほとんどの活動が中止となったため、連携の場として設定している内容を記載しています。

福祉NPO連絡会	育成会地域法人協議会代表者会議
指定障害福祉サービス事業者等集団指導	東京グループホーム連絡協議会
小金井市就労支援者連絡会議	小金井市地域ケア会議
東京都育成会大会	育成会新年会
東京都主催経営管理研修	小金井市地域自立支援協議会
小金井市社会福祉協議会理事会	小金井市介護保険運営協議会
小金井市社会福祉法人社会貢献連絡協議会	小金井ボランティア市民活動センター
相談事業所連絡協議会	運営委員会

# 2022年度：ゆめ工房さくら事業報告書

はじめに

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら、事業運営をしてきましたが、12月後半には感染者が多数出てしまい、事業所を3日間閉鎖する事態になりました。幸いにもみなさん、重症化することもなく元気になられ1月には全員が無事に新年を迎えることができました。

行事に関しましては、10月に半日だけのミニ運動会を開催し、久しぶりにフラワー工房のみなさんとも一緒に楽しみました。12月のクリスマス会では、宮地楽器ホールで影絵と生演奏の音楽のコラボレーションに癒されました。

「ゆめ工房移転」が具体的に進行しはじめたため、建設予定地を利用者のみなさんと訪れ、花見をしてきました。みなさんの反応も良く、「移転が待ち遠しい。」ととても楽しみにされています。

また、昨年度は第三者評価を受審しました。受審結果をふまえて次年度の支援につなげていきたいと思っております。

## 1. 重点目標

共通目標

◎新型コロナウイルスの感染症予防策に万全を期し、安全安心な環境を提供します。

引き続き、検温・消毒・パーティションの活用などで、対策を行ってきました。

また、東京都の集中検査にも参加をし、全職員に週1回の抗原検査を実施しました。

◎虐待防止の取り組みを継続して実施し、権利擁護、虐待防止に努めます。

虐待防止の取り組みとして、権利擁護制度についての研修、サポーターズカレッジの動画による研修を受講し、報告書の提出後に振り返りを行い、虐待防止につとめました。また、職員のストレスチェック、虐待防止セルフチェックを実施し、職員一人ひとりが自身の支援の振り返りを行いました。新たにオンブスマンによる利用者の相談日を定期的に設けました。

生活介護

◎個々にそった作業・活動を通し、将来につながる「自分らしく生活できる」支援をめざします。

活動の幅を少しずつ増やしています。個々の楽しみも大切にしながらも、集団で行う活動も取り入れ、集団生活に対応できるような活動をめざしてきました。特にカレンダー作りでは、みんなで協力して作った毎月のカレンダー、個々で描いた絵や字を組み合わせで作った年間カレンダーはとても素敵にできあがりました。完成時には達成感を感じられる活動となり、今後も継続していきたいと思っています。

## 就労継続 B 型

◎生産活動毎に支援方法を検討し、本人の達成感や意欲を醸成する環境を作ります。

秋にはお歳暮用のコーヒースティック作業を開拓し受託することができ、作業工程の細分化と自助具の活用により、みなさんが携われる作業となりました。また、入荷の合間の時間を活用し、ハサミを使った訓練的な作業を取り入れ、まっすぐ切る・型紙と同じように切る等、今後の生活や作業のスキルアップにつながる活動を行いました。

◎通所することに困難を抱える利用者に対して、様々な支援方法を実施します。

新型コロナウイルス感染症の影響や精神面での不調により通所できない利用者に関して、訪問支援や電話での支援を行いました。また、事業所外での活動を提供することで、数回参加していただくことができました。

## 2. 利用者状況 (2023年3月31日現在)

① 生活介護 定員 15 名 現員 13 名

② 就労継続 B 型 定員 20 名 現員 18 名

③ 障がい支援区分(生活介護)

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	9	0	0	1	1	4	3
女	4	0	0	0	1	1	2
合計	13	0	0	1	2	5	5

④ 愛の手帳

	現員	1度	2度	3度	4度	手帳なし
男	19	0	11	4	4	0
女	12	0	2	7	2	1
合計	31	0	13	11	6	1

## 3. 職員体制

生活介護・就労継続B型			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		兼務
サービス管理者	(1)		所長と兼務
支援員	4	8	
看護師		1	週1回
嘱託医		1	月1回
小計	5	10	
合計	15		

・利用者状況や支援内容によって、職員の体制を柔軟に対応しているため、生活介護と就労継続 B 型の職員の総数を掲示している。  
看護師 1 名を配置している。  
嘱託医 1 名を配置(月 1 回来所)

## 4. ボランティア協力体制

・ゆめ工房の運営には地域の多数のボランティアの方々の協力があり、日々の作業活動はもとより行事活動や余暇活動に至るまで多大な尽力をいただいています。

2022年度ボランティア在籍数 5名



## 5. 活動内容

### ① 作業種目

共通 : 公園清掃・リサイクルバッグ製作・凧製作・DM作業・モミガラ詰め・  
コーヒー詰め作業

就労 B : 焼き菓子製造・センター清掃 等

生活 : 古紙回収 等

### ② 活動

共通 : 水曜活動 (音楽・アート・スポーツ 隔週)・季節の行事

生活 : 創作活動(絵・手芸・工作等)・体を動かす活動・音楽活動

## 6. 虐待防止の取り組み

今年度も虐待セルフチェックやストレスチェックを行うことで、職員の自己チェックをしていただきました。

## 7. 職員研修

・今年度も引き続き、社会福祉法人幸会理事長伊藤浩理事長を講師に迎え、所内職員研修をおこないました。日頃の支援方法、活動の進め方等を学び、また、困難なケースについて助言をいただき、支援力向上につとめてきました。また、外部研修としては、必要とされる資格の更新研修や希望する支援技術研修、制度理解に関する研修に参加し、職員の支援技術のスキルアップをはかってきました。

また、3月の合同職員研修では、初めて、障がい者の「看取り」についての講義を受けました。

## 8. 苦情解決

・苦情の受付のみならず利用に関する要望など所長が窓口となり対応しています。その他の苦情相談に関しては、事業所のみならず、市の相談員、小金井市苦情調整委員、福祉サービス運営適正化委員会の連絡先を重要事項に記載するとともに丁寧にご案内をしています。(事業所内にも掲示) 今年度の具体的な苦情はありませんでした。

## 9. 実習・見学

・地域の社会資源としての役割として、積極的に様々な機関からの実習や見学を受け入れています。

実習・見学の種類		受け入れ先	人数
1	体験実習	田無特別支援学校	1名
2	福祉体験実習	慈恵会医科大学	4名
3	現場実習	田無特別支援学校	4名
4	先生の体験実習	小学校教諭	2名
5	インターンシップ	小金井特別支援学校	21名

## 10. 地域連携

地域の方々のご協力により、以下のイベントに参加させていただきました。

- 5月14日 貫井南分館祭り出店
- 11月30日 障害者週間 市役所販売
- 12月3日 虹の家展示会出点
- 2月28日 イトーヨーカドー出店
- 3月7日 アートクラブ東図書館壁面製作展示(3/8～)
  
- 3月26日 貫井北センター祭り出店
- \*その他 福祉マルシェ出店 (小金井・国立・国分寺・八王子・秋葉原・西船橋)

#### 11. 行事・活動

今年度もコロナウィルス感染症の影響は受けましたが、規模を縮小して、以下の行事や活動を行いました。

##### 【行事・活動】

4月 新人歓迎会	10月 共通：さくら会運動会
5月 B: 社会科見学	11月 なし
6月 なし	12月 共通：クリスマス会
7月 なし	1月 共通：初詣・書初め
8月 なし	2月 なし
9月 なし	3月 お花見

##### 【その他】

- 12月 小金井市集団検診(39歳以下)
- 1月 防災訓練

#### 12. 年間利用者数

年間集計表

事業/月	4月分	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
生活介護	232	219	269	241	242	239	233	233	197	204	224	266	2799
就労B	307	295	321	280	311	278	307	292	192	291	286	323	3483
訪問支援	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	11
ボランティア	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
見学					3			3			3		9
実習・体験受入れ	1	2	1	22	1	2	2	2	2		1		36
送迎	241	237	292	278	301	273	296	301	198	282	312	354	3365
総合	787	759	889	827	864	798	844	837	594	783	832	949	9763

#### 13. 第三者評価機関受審

質の高い福祉サービスを事業者が提供するために、保育所、指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、障害者支援施設、社会的養護施設などにおいて実施される事業について、公正・中立な第三者機関が専門的・客観的な立場から評価を行う仕組みが、福祉サービス第三者評価です。今年度受審しました。

利用者調査とサービス項目  
を中心とした評価手法

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0012

所在地 東京都渋谷区広尾1-1-35 マンション広尾台808

評価機関名 一般社団法人Riccolab.

認証評価機関番号 機構 17 - 241

電話番号 03-6433-5280

代表者氏名 渡辺 真紀 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		修了者番号			
	①	渡辺 真紀	H0201062			
	②	小竹 啓樹	H1801039			
	③					
	④					
	⑤					
福祉サービス種別	多機能型事業所					
	<input checked="" type="checkbox"/> 生活介護					
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)					
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)					
	<input type="checkbox"/> 宿泊型自立訓練					
	<input type="checkbox"/> 就労移行支援					
評価対象事業所名称	ゆめ工房さくら		指定番号	1313300731		
	〒	184-0015				
	所在地	東京都小金井市貫井北町2丁目18番6号				
	TEL	042-385-6683				
	事業所代表者氏名	所長 盛生 裕子				
	契約日	2022	年	10	月	4
利用者調査票配付日(実施日)	2022	年	12	月	12	日
利用者調査結果報告日	2023	年	1	月	19	日
自己評価の調査票配付日	2022	年	11	月	1	日
自己評価結果報告日	2023	年	1	月	19	日
訪問調査日	2023	年	1	月	26	日
評価合議日	2023	年	1	月	26	日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は個別聞き取り調査とアンケート調査で実施した。また、利用者調査を補完するものとして、郵送による家族アンケートを実施した。 職員には、職員自己評価記入要領を配布するとともに職員説明会を実施し、第三者評価及び職員自己評価への理解を深めた。					

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	運営協議会やオンズパーソンによる相談体制の構築等、社会福祉法人としてのガバナンスとコンプライアンスの強化が着実に図られている
	内容	2021年に市から社会福祉法人としての認可を受け、「社会福祉法人小金井さくら会」として事業を開始しており、組織力向上に向け、ガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組んでいる。承認権限規程による役割の明確化をはじめ、各種規程類の整備を進めており、職員倫理綱領と行動規範を新たに作成した。また、地域住民による「運営協議会」を設置し、法人経営の透明性を図るとともに、苦情対応規程を見直し、毎月オンズパーソンが利用者の相談に応じる体制を整えた。権利擁護に関する講演会の実施等、法人としての体制整備を着実に進めている。
2	タイトル	障害特性や日々の心理状況に応じてコミュニケーションを図り、自由に自己表現をしていけるよう安心出来る雰囲気作りを大切にしている
	内容	利用者とのコミュニケーションは障害特性や日々の浮き沈みを考慮しながら取っており、職員と一緒に気持ちの整理をしていく時間を設けるといった配慮を行うことで関係性を深めている。発語の無い人や、話したい思いはあるが人前で話すことが出来ない人については、朝礼の時間の中で自分の思いを表現する機会を設けており、人前でも意見を出していけるよう働きかけている。話せたという成功体験を積み重ねていくことで、積極的に自分のことを話すようになった利用者もいるなど、和気あいあいとした雰囲気が積極的な自己表現に繋がっている。
3	タイトル	受注作業や自主生産品制作、古紙回収、公園清掃など事業所内外で様々な仕事を展開しており、利用者の働く意欲向上に繋げている
	内容	生活介護、就労継続B型共に事業所内外で様々な受注作業や委託業務などを行っており、利用者の意欲向上に繋げている。事業所内ではダイレクトメールの封入封緘作業やもみ殻詰め、シール貼りなどの受注作業や自主生産品である製菓製造を行っており、作業を細分化することで効率性を高めている。事業所外では市からの委託業務として近隣の高校や企業、地域住民宅から古紙を回収して業者に納品する仕事や公園清掃、近隣住民宅の草取りなどを行っており、地域住民と直接関わることで自分たちの役割を認識し、自己有用感を高めていけるよう支援している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	各種記録の目的を明確にした様式とし、ICT化を進めることで記録の体系化と事務作業の軽減につなげることが期待される
	内容	利用者の記録は手書きをメインに連絡帳、サービス提供記録、業務日誌等に記載されており、内容も作業や様子に関わることが中心となっている。個別支援計画に沿った記録とすることは課題と認識しているが業務に追われ、改善には至っていない。まずは、連絡帳、サービス提供記録、業務日誌の精査を行い目的を明確にした様式とし、利用者支援はケース記録に一本化する等、記録の整理が必要である。併せて法人が導入したクラウドシステムを活用してICT化を進め、記録の体系化と充実、及び事務作業の軽減につなげていくことが期待される。
2	タイトル	利用者や家族が理解しやすい工賃の仕組みを整備すると共に、定期的な説明を行うことで仕事と工賃との関連性を強めていくことが期待される
	内容	工賃支給については工賃規定に則り単価と時間数に応じて支給されており、生活介護、就労継続B型共に支給されている。利用者には契約時に説明を行っているが、計算や内容が難しいといった声が上がっており、家族からも年に一度は支給についての説明が欲しいといった要望が出ている現状がある。事業所としても工賃はどうあるべきかという問いを抱いており、利用者、家族共に分かりやすい説明が出来ていないという認識を持っているため、今後利用者が自分の仕事と工賃を結び付けることが出来、更なる意欲向上に繋げていける仕組み作りが期待される。
3	タイトル	高齢化に向けて支援スキル向上や想定されるリスクの洗い出しを行い、必要な支援に伴う仕組みについて整備していくことが求められる
	内容	利用者の高齢化が進んできており、これまで出来ていたことが出来なくなり、排泄支援や歩行介助、送迎対応、服薬支援といった直接介助が必要な場面が増えてきている。今後も転倒や疾病、通所困難など高齢化によるリスクは高まっていくことが予想されるため、職員の介助スキルの向上と共に、想定されるリスクの洗い出しが必要となってきている。また、現在も服薬支援は行っているが、チェック表を使用していないなど増加する支援に対して仕組みの整備が十分に行っていない状況にあるため、支援内容に応じた仕組み作りを行っていくことが求められる。

## 2022年度：フラワー工房さくら事業報告書

はじめに

2022年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業運営を行いました。12月中旬に感染者が多数発生し4日間事業所を閉所せざる得なくなりました。行事につきましては、宿泊訓練の中止、クリスマス会は事業所閉所のため不参加となりましたが、10月に内容を縮小し実施したミニ運動会では、3年ぶりにゆめ工房さくらの皆さんと思いきり体を動かし楽しむことが出来ました。

作業内容については、請負作業では新たな仕事を請け負い、また自主製品であるクッキー製造では福祉のマルシェでの販売が加わり工賃収入の増加を図ることが出来ました。

### 1. 重点目標

- ① 外部講師による研修を実施し、より良い支援を目指します。
  - ・伊藤講師による研修において、助言を受け、本人に即した個別支援計画を作成し、利用者支援向上に努めました。
- ② 居心地の良い作業所作りを目指します。
  - ・メンバー会議の活用  
メンバー会議は利用者方による会議体で活動の内容、みんなの決まり事を決めていく内容を中心に月1回開催されている会議です。その会議にて運動の日の内容(季節を楽しむ散策、ダンス、ペットボトルボーリング)や「お弁当の日」(好きな昼食を自分で購入して食べる活動、今年度は10回実施しました。)の内容を利用者方が決定し、みんなの合意に基づいた取り組みを実施しました。
- ③ 目標工賃：平均工賃(月)10,000円を維持します。
  - ・平均工賃(月)12,877円となり目標工賃10,000円を維持することができました。
- ④ 新型コロナウイルス感染症予防対策に対応したカフェりあんでの自主製品の販売や、地域交流の場となるような運営を検討します。
  - ・カフェりあんの運営については、新型コロナウイルス感染症感染拡大のためカフェは休業、感染予防対策を講じて自主製品の販売のみを行いました。
- ⑤ 第三者評価の受診結果を受けた改善に取り組んでいきます。
  - ・記録様式の効率化についての指摘を受け、効率化に向け模索中であり次年度も継続して取り組んでまいります。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症予防対策に万全を期し、安全安心な環境を提供します。
  - ・室内の消毒、手洗い、換気、アクリル板の設置、空気清浄機使用に加え、小金井市のコロナ対策補助金を利用して、CO2濃度測定器を設置、作業台を増設、善意銀行より空気清浄機の寄付があり車に設置、また東京都の集中的検査事業を利用して、週2回職員の抗原検査を実施しました。
- ⑦ 虐待防止の取り組みを継続して実施し、権利擁護、虐待防止に努めます。
  - ・虐待防止の取り組みとして、今年度も夕方ミーティング時に15分動画視聴のサポ

ーターズカレッジを受講し、報告書の提出後振り返りを行い虐待に関する意識を高めました。また、職員のストレスチェック、虐待防止セルフチェックを実施し、職員一人ひとりが自身の支援の振り返りを行いました。

## 2. 利用者状況 (2023年3月31日現在)

① 就労継続B型 定員 20名 現員 23名

② 障がい支援区分

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
男	8	0	0	3	4	0	0	1
女	15	0	0	1	7	2	1	4
合計	23	0	0	4	11	2	1	5

③ 愛の手帳

	現員	1度	2度	3度	4度	手帳なし
男	8	0	3	5	0	0
女	15	0	3	9	3	0
合計	23	0	6	14	3	0

## 3. 職員体制

就労継続B型			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	(1)		所長と兼務
支援員	2	9	
小計	3	9	
合計		12	

## 4. ボランティア協力体制

・フラワー工房の運営には地域のボランティアの方々の協力があり、日々の作業活動はもとより行事活動や余暇活動に至るまで多大な尽力をいただいています。

2022年度ボランティア在籍数 1名

## 5. 活動内容

① 作業種目

クッキー製造販売

ショッピングバック

リサイクルバック製作

凧製作

ダイレクトメール

清掃（小金井市障害者センター、公園）等

カフェ（新型コロナ感染症拡大のため自主製品販売のみ）

② 余暇活動

水曜活動（音楽クラブ・スポーツクラブ・アートクラブ）隔週

運動の日（第3金曜日）

それいゆ（新型コロナ感染症拡大のため未実施）

お誕生日会

メンバー会議

6. 職員研修

・職員研修の内容としては、社会福祉法人幸会理事長伊藤浩理事長を講師として、研修を実施しました。

また3月には、障がい者の「看取り」についての合同職員研修を実施しました。

7. 苦情解決

・苦情の受付のみならず利用に関する要望など所長が窓口となり対応しています。その他の苦情相談に関しては、事業所のみならず行政窓口等の情報を伝えています。具体的な苦情はありませんでした。

8. 実習・見学

・地域の社会資源としての役割として、積極的に様々な機関からの実習や見学を受け入れています。

実習・見学の種類		受け入れ先	人数
1	職場体験実習	田無特別支援学校	2名
2	職場体験実習	府中けやきの森学園	1名
3	東京都若手教員育成研修	小金井特別支援学校	1名
4	福祉体験実習	慈恵医科大学	3名
5	まち探検	前原小学校2年生	20名

9. 地域連携

・地域連携としての活動については、以下のイベントでの出店販売を行いました。また、市内の事業所の集まり「りんく」の定期的な連絡会に参加し、障がいの種別を越えた様々な事業所間との協働や連携を行いました。

05月14日 貫井南公民館まつり 出店

11月19日 しんあい保育園保育展 出店

11月30日 障害者週間 市役所販売（本町暫定）

02月28日 イトーヨーカドー出店

03月07日 アートクラブ東図書館壁面装飾制作展示

03月26日 貫井北センター祭り

\*その他 福祉のマルシェ出店（武蔵小金井・国立・八王子・秋葉原・西船橋）

## 10. 行事・活動

・今年度は以下の行事や活動を行いました。

4月 入所お祝い会	10月 さくら会運動会
5月 なし	11月 なし
6月 なし	12月 クリスマス会 不参加
7月 なし	1月 初詣
8月 なし	2月 なし
9月 なし	3月 なし

\*その他

8月 防災訓練

12月 小金井市集団検診（39歳以下）

## 11. 年間利用者数

年間集計表

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
就労継続B	415	402	460	410	417	417	415	415	313	377	393	443	4877
ボランティア	7	4	4	4	6	4	4	3	2	4	3	3	48
見学	0	0	0	0	0	0	0	3	20	0	3	0	26
実習受入	0	0	1	1	0	2	1	1	1	0	0	0	7
送迎	30	32	35	28	28	30	30	32	22	18	0	0	285
総合	452	438	500	443	451	453	450	454	358	399	399	446	5243

## 2022年度 グループホームさくら事業報告書

はじめに

グループホームが、3ユニットでの運営となって2年10ヶ月が経過しました。それぞれのユニット毎の個性を生かしながら、その方らしい自立のあり方を模索しながら、生き生きとしたグループホーム生活を継続できるように支援してまいりました。

新型コロナウイルス感染症の完全な収束を迎えられない中、換気や消毒、手洗いの励行、アクリル板の設置や黙食など生活パターンの変更など利用者方に協力をしていただきながら、グループホームでの生活を続けています。それでも、少しずつ通常の生活に戻りつつあることを受け、久しぶりの外食や休日宿泊など、出来る範囲で工夫しながら、それぞれのユニットで皆さんにとって楽しい時間が過ごせるように努めています。



## 1. 重点目標

<グループホームさくら 共通目標>

・2022年度に個別支援計画の見直しに着手し、目標の立て方から再検討を行いました。そのため、新しい形の個別支援計画を立案し、それに基づいた支援の実践を行いながら「その人らしい生活」を実現するため、小さなことから一つずつ積み上げてきた1年であったと思います。個別の課題毎に適切な支援ができるよう今後に繋がる再検討でした。

・今年度は年二回の保護者会を行いました。久しぶりに直接保護者の方のご意見やご要望を伺うことができました。

・月1回のグループホーム連絡会を開催し、3ユニットの連携、日中活動との連携をはかりました。貴重な情報交換の場となり、よりよい支援を目指すことに役立っています。

・第三者評価の指摘を受け、記録の方式を見直しました。

日々のサービス記録の項目を見直し、記録の意味を明確にし、効率化を図りました。

・ケース記録を新設し、個別支援計画のそれぞれの目標に基づく記録を実行しました。これまでの生活全般の記録の方式からの変更の不慣れな部分もあり、次年度への課題となっています。

・ヒヤリハットを活用し、職員会議や事業所報告にて共有しました。

集計の方法も新しくなり、支援の向上に役立っています。今後も、継続していきたいと思っています。

・虐待防止の取り組みとして、内部研修として外部講師を招いて権利擁護研修、外部研修として動画視聴方式による（サポーターズカレッジ）研修を受講しました。

また、虐待防止セルフチェックを行い、職員一人一人が自分自身を振り返り、虐待防止の意識を高める取り組みを行いました。

・グループホーム全体として、東京都の虐待防止研修に1名が参加し、報告と共に各ユニットで振り返り研修を行い情報を共有しました。

・新型コロナウイルス感染予防対策として、消毒、換気、アクリル板設置の継続、等基本的な対策に加え、東京都の集中的検査事業を利用して、職員の毎週PCR検査を、継続して実施しています。

<らいむ（来夢）>

① 2022年度の新しい形の個別支援計画の作成を受け、ご本人らしい自立生活を目指していきます。

・新しい形の個別支援計画によって、目標を明確にすることができ、支援の向上に役立っています。

② 個別のニーズを見極め、生活課題や意思表示など、細かいステップでチャレンジしていきながら、生活の充実を図ります。

・高齢化の問題や、こだわりへの対応、意思表示の支援など、個別のニーズに対応するように、記録やスタッフ会議での話し合いを重ね、必要なタイミングで支援できるようにしてきました。

③ 365日利用のグループホームとしての体制を継続してゆきます。

・365日稼働となり、週末の夜勤者、休日の日勤者を配置し運営を継続しています。

365 日対応を継続することによって、ご家庭の事情による、急な週末利用についても、速やかに対応することが出来ました。

<らいか（來花）>

① 2022 年度の新しい形の個別支援計画の作成を受け、ご本人らしい自立生活を目指していきます。

・新しい個別支援計画の作成によって、目標が明確化され、それぞれの方に、具体的な課題を設定することができ、支援に繋がっています。

・日中活動とのかかわりの中から具体的な課題を見つけ、取り組むことによって、自信に繋がり、生活が充実してきています。

② それぞれの方の生活スキルを見直し、個人の余暇時間を大切にしながら、出来ることを増やすようにアプローチしていきます。

・生活スキルの見直しと、気づきによって、環境を整えることで出来ることが増え、安定した生活が継続しています。

・個別の余暇時間設定の工夫と、集団での楽しみを組み合わせることで楽しい時間を過ごしています。

③ 個別支援計画に基づき、健康管理に重点をおいて、プログラムを実施していきます。

・個別の健康状況に応じて、ストレッチ等のプログラムを実施しました。健康維持のため今後も、十分な健康観察と運動プログラムを継続してゆくことが必要です。次年度は必要に応じて、障害者センターの機能訓練事業と連携し対応していく予定です。

<ゆりの木>

(ア)2022 年度の新しい形の個別支援計画の作成を受け、ご本人らしい自立生活を目指していきます。

・新しい形の個別支援計画によって、目標が明確化され支援に役立っています。

(イ)将来に向けて、ご本人の目標を共に考え、導き出しなが具体的な課題を設定し実施していきます

・ご本人の希望を聞きながら、具体的な課題を設定し、実行してきました。生活課題への取り組みから、社会生活での課題へと広がり繋がっています。

・それぞれの方がスキルアップし、ご本人らしい自立に向けて、新しいチャレンジに取り組んでいます。進んで取り組む姿や、仲間同士での関わりによって向上している様子が見えてきます。

(ウ)健康管理に配慮し、毎月の体重、血圧測定を実施し、徒歩通所の部分的導入を継続していきます。

・毎月の体重、血圧の測定を継続しています。下痢や、便秘、皮膚の不調、などの体調の変化を見逃さないように、支援を継続しています。

・ご自身の体調や天候を考えて、通所方法を選択していくようになりました。自立へのステップとして、次年度も継続していきます。

## 2. 利用者状況と利用実績

① らいむ 男性 5 名 らいか 女性 5 名 ゆりの木 男性 5 名

② 障がい支援区分

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
らいむ男	5	0	0	0	2	3	0	0
らいか女	5	0	1	0	2	1	1	0
ゆりの木	5	0	0	2	3	0	0	0
合計	15	0	1	2	7	4	1	0

③ 愛の手帳

	現員	1度	2度	3度	4度	手帳なし
らいむ男	5	0	3	1	1	0
らいか女	5	0	2	3	0	0
ゆりの木	5	0	1	4	0	0
合計	15	0	6	8	1	0

④ 利用実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
らいむ	95	94	105	92	107	95	98	92	79	87	95	102	1141
らいか	59	70	86	80	81	75	79	76	45	72	77	80	880
ゆりの木	75	67	88	74	71	73	68	73	56	66	72	78	861
合計	229	231	279	246	259	243	245	241	180	225	244	260	2882

宿泊年間合計

らいむ	年間合計	1, 159	人泊
らいか		853	人泊
ゆりの木		913	人泊
合計		2, 925	人泊

3. 職員体制

らいむ (来夢)			
共同生活援助			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	(1)		所長と兼務
生活支援員	2	7	兼務者含む
小計	3	7	
合計	10		

らいか (来花)			
共同生活援助			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	(1)		所長と兼務
生活支援員	1	6	兼務者含む
小計	2	6	
合計	8		

ゆりの木			
共同生活援助			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	(1)		所長と兼務
生活支援員	1	3	兼務者含む
小計	2	3	
合計	5		

#### 4. 活動内容

##### <らいむ>

04月27日	防災点検	02月02日	節分
05月19日	誕生会	02月14日	避難訓練(火災)
05月24日	保護者会	02月14日	誕生会
10月27日	ハロウィン茶話会	02月23日	祝日宿泊
11月21日	防災点検	02月24日	伊藤講師研修
11月23日	祝日宿泊	03月03日	伊藤講師 GH 全体研修
11月28日	保護者会	03月11日	福祉講演会
12月13日	防災訓練(地震)	03月14日	誕生会
12月27日	お疲れ様会	03月30日	送別会
※「らいむニュース」発行1回		スタッフ会議	12回(内1回は書面)

##### <らいか>

04月20日	誕生会	11月21日	防災点検
04月27日	防災点検	12月02日	伊藤講師の研修
05月18日	保護者会	12月26日	防災訓練(地震)
07月07日	七夕	01月04日	新年会&誕生会
07月25日	誕生会	02月02日	豆まき
10月25日	誕生会	02月14日	バレンタインデー
10月27日	ハロウィンパーティー	02月23日	祝日宿泊
10月28日	虐待防止研修	03月11日	看取り研修
11月03日	祝日宿泊	03月14日	ホワイトデーパーティー
11月16日	保護者会		
※「らいかレター」発行3回		スタッフ会議	12回

##### <ゆりの木>

04月27日	防災点検	11月21日	防災点検
05月30日	保護者会	11月23日	祝日宿泊
06月30日	防災訓練	12月01日	保護者会
07月04日	クッキーの日	12月22日	クリスマス会
08月30日	誕生会	01月26日	誕生会
10月06日	誕生会	02月23日	祝日宿泊
10月31日	ハロウィンお茶会	03月03日	伊藤講師 GH 全体研修
11月18日	伊藤講師研修	03月11日	福祉講演会
※「from yurinoki」発行2回		スタッフ会議	12回

#### 5. 虐待防止の取り組み

- ・虐待防止に関するストレスチェックをおこない、集計し、報告しました。

- ・外部機関のストレスチェックを受け、職員一人一人が自分自身の振り返りを行いました。
- ・リモートによる、サポーターズカレッジの虐待防止研修を受講しました。
- ・東京都虐待防止研修参加者の報告を受け、振り返りを行ないました。

## 6. 職員研修

・外部研修として、東京都グループホーム従事者研修の参加（1名）、所内研修としては社会福祉法人幸会理事長伊藤浩理事長を講師として、ユニットごとに研修を実施しました。各ユニットではそれぞれのケースの課題について、積極的で多様な質問に的確な回答と学びを深めるアドバイスを下さり、具体的な支援の方向性を共有ができ、一歩前進することができました。また、今期は、初めてグループホーム全体での研修を行いました。グループホーム事業の歩みとその成り立ちの意義や、これからのグループホームの課題について講義を頂き、グループホームの重要性を再認識することができました。日々の支援の積み重ねと、将来を見据えて、息の長い支援が必要であると実感いたしました。

## 7. 苦情解決

・苦情の受付のみならず利用に関する要望など所長が窓口となり対応しています。その他の苦情相談に関しては、事業所以外の行政窓口等の情報を伝えていますが具体的な苦情はありませんでした。また、今年度は初めて、オンブズパーソンの方との相談を実施いたしました。各ユニットごとに話し合いが行われ、日頃の様子や GH への要望などの発言がありました。

## 8. 地域連携

・グループホームは地域に根ざした大切な生活の拠点です。グループホームさくらの事業所は、近隣の方々から日々温かい眼差しで見守ってくださり、大変ありがたく感じています。今後も事業所が増えることに伴い、地域との関係や連携はとても大事になります。我々ができる地域貢献とは何なのかを考えながら利用者支援に取り組んでいきたいと考えます。

## 2022年度 あしすと さくら事業報告

はじめに

昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により電話や書面上でのやり取りが中心の相談支援となりました。しかしながら、そんな中でも繰り返し対面による相談対応を行い、慎重に利用者との関係を構築しながらサービス利用に繋いでいくケースも増え、相談支援の奥の深さや広い視点が必要な事を痛感した年度でした。

今年度は、基幹相談支援センターが主催する相談支援事業所連絡会が再開され、他事業所との定期的な情報交換や共有の場を設けることができました。その中で、地域で大きな役割を担う地域生活支援拠点や精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業への係わりに関して、さくら会として今後どのように対応していくかが大きな課題となると考えています。

また、さくら会が所属する東京都育成会傘下の地域法人協議会において、相談支援部会の部会長を担うことになり、今後の相談支援の方向性についてセミナー等を開催いたしました。その中で議論されたことは、相談支援の重要性は誰もが認識しているが、現状の報酬体系において相談支援事業所を運営していくことは、行政からの指定管理や委託でなければ非常に厳しくなるということです。その反面、前述した役割を担う責務であったり、当事者の高齢化や保護者の高齢化に伴う困難ケースへの対応が増加していく今後に向けて、どれだけの事業者が生き残れるのであろうかという切実な問題でした。これらの不安を払拭するためには、相談支援の重要性を多くの人に認識してもらう業務を心がけることや各関係機関との問題意識を共有する必要があると考えています。

事業報告は重点目標とした内容を中心として報告いたします。

### 【事業報告】

1. 定例ミーティングを月2回とし、情報の共有と事例検討を通じて個々のスキルアップを図るということに関しては、新型コロナ禍であっても対面によるミーティングを基本とし、第2、第4水曜日を定例会議日と設定し、相談支援専門員全員によるケースの見立てや具体的支援内容についての協議の場としました。
2. 基幹相談支援センターの標準ケース会議や計画相談支援検討会議に参加し、情報の把握や連携体制の構築に勤めることに関しては、ようやく基幹相談支援センター主催の相談支援事業所連絡会が再開され、他事業所との情報交換が実現しました。  
しかしながら、個別のケース検討を行なう内容ではなく、本格的な連絡会として役割を担っていくのは今後に期待しています。そのため、実質的には各々の受け持ちケース毎に各関係機関との連携体制を構築し相談支援の充実に努めました。
3. 虐待防止の取り組みに関しては、研修の受講や虐待セルフチェックの実施、定例会議での意見交換を行い、権利擁護、虐待防止に努めました。また、虐待防止の啓発に関して

も相談支援の場においてわかりやすく説明することを心がけました。

4. 医療ケア児に関するサービス等利用計画のスキルアップに関しては、医療的ケア児コーディネーターとして2名の相談支援専門員が配置されており、新型コロナウイルス感染症の影響で開催は限られましたが、リモートによる研修の機会などを通じて研鑽を積みました。
5. 困難事例ケースの対応について関係機関との連携に努めることに関しては、行政関係者、他事業所相談支援専門員、介護保険のケアマネージャー、病院の医療ソーシャルワーカー、事業所サビ管等と緊密な連携の元、対応しました。

#### 6. 年間計画作成数

計画相談

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年 間
計画作成	3	5	5	4	4	4	2	1	1	3	6	5	43
モニタリング	5	7	12	15	11	7	6	7	10	15	11	8	114
合計	8	12	17	19	15	11	8	8	11	18	17	13	157

児童

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年 間
計画作成	1	1	0	1	1	0	0	1	1	3	0	0	9
モニタリング	1	0	0	1	0	0	1	1	2	13	0	3	22
合計	2	1	0	2	1	0	1	2	3	16	0	3	31

※昨年度より4割近くの増となっている。

#### 7. 相談員体制

- ・管理者 1名
- ・相談支援専門員 3名（内2名 医療ケア児コーディネーター資格有）
- ・相談員 1名